

8

日本の農業①—特徴と地域別産出額

日本の農業は北海道を除き、狭い耕地でより多くの収穫をあげる集約的農業が行われています。また、農業人口の減少や食料自給率の低下が問題となっています。

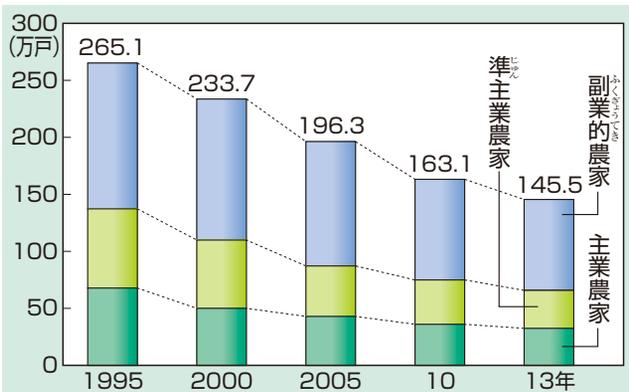
日本の農業の特徴

日本の農業は、大規模経営の農家が多いアメリカなどと比べて、耕地面積が狭い小規模な農家が多いことが特徴です。しかし、多くの人手や肥料を使う集約的農業によって、単位面積当たりの収穫量は多くなっています。その反面、生産費が高くなるため、日本の農作物の価格は、一般に輸入品よりも高くなります。

また、近年、安い農産物の輸入の増加や、農業で働く人の減少・高齢化が進んだことによって、食料自給率が低下していることが大きな問題となっています。

←国内で消費する食料を自国で生産する割合

データ 販売農家数の移り変わり

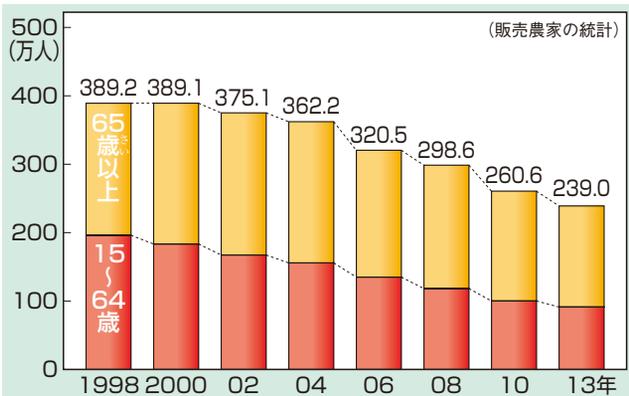


(農林水産省資料)

食料自給率が低いと、輸入ができなくなったときに困るよね。



データ 年齢別農業就業人口の移り変わり

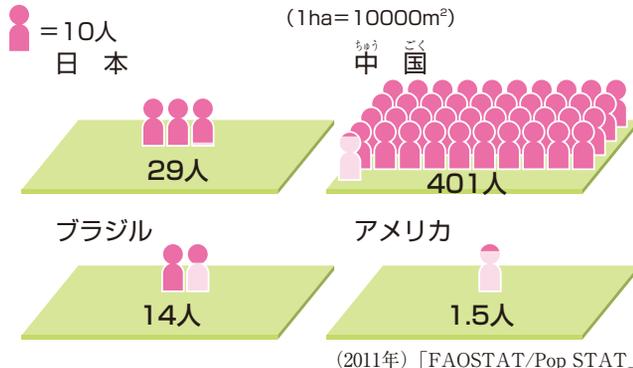


(農林水産省資料)

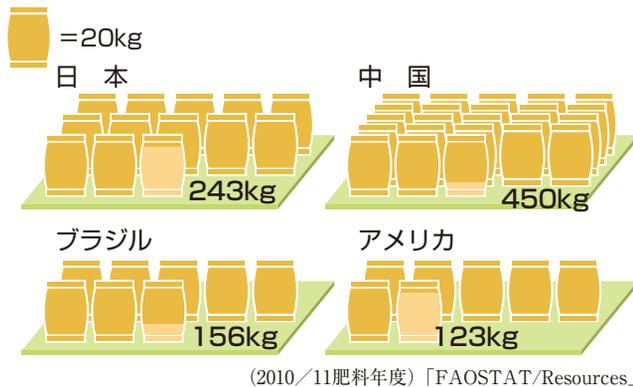
世界と比べよう

同じ耕地面積で比べると、日本や中国は、多くの人手と多くの肥料を使って作物をつくっていることがわかります。

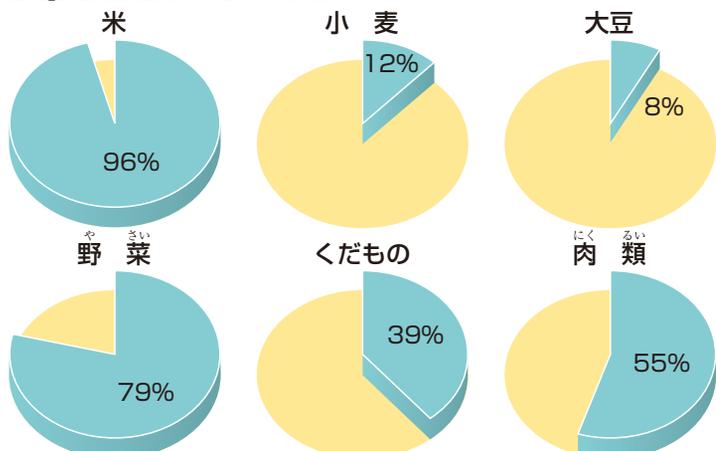
データ 耕地100ha当たりの農業従事者数



データ 耕地1ha当たりの肥料消費量



データ 品目別の食料自給率



(2013年度) 「食料需給表」